

## 平成22年度 森プロ事業実績：たにくみ山づくりプロジェクト

(平成23年3月末現在)

	H19~21年度	H22年度			5カ年 計画	
	実績	計画	実績	達成率		備考
集約化(ha)	263	89	3	3%	595	
作業道(m)	2,896	1,900	1,711	90%	加速化・緊急 管理路 7,810	
間伐等	面積(ha)	112	55	23	42%	利用+切捨 196
	材積(m <sup>3</sup> )	1,743	1,899	84	4%	7,871(11,449)
備考	団地外実績(利用間伐 22ha 搬出材積 1,196m <sup>3</sup> 作業路開設 2,397m)					

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)(見込み)

1,900 円/m<sup>3</sup>

## 施業集約化の状況

- 境界立会→測量→施業提案→現地説明会を行い施業集約化を実施。
- 他地域の集約化計画作成に忙殺され、事業化は3ha(達成率3%)にとどまってしまった。

## 施業プランの活用状況

- 施業提案に活用中。

## 施業プランナーの養成状況

- 施業プランナー1名育成 (県研修)
- ・7月にプランナー増員サポート事業を受け全職員参加により研修し、認識を高めた。

## 作業道の状況

- ・前年度開設した作業路の先を延長。地山勾配が緩いところでは、作業性を考慮して、広く開設し、作業ポイントとして利用した。
- ・車両系の作業システムを実施できる路網を配置。
- ・豪雨後に昨年の開設路線を調査し、崩壊が無いことを確認。
- ・狭い幅員で施工することで、比較的容易に山へ進入できるが、作業ポイントが必要。
- ・縦割りの複数人の所有森林を等高線状に3.6m幅員の基幹道を開設することができ、今後は搬出路開設により搬出可能エリアの拡大を進める。



有鳥北ノ洞線

基幹道 篠坂東野線  
W=3.6m 開設により  
整備後の出材が可能

## 作業システムの状況

- ・素材生産性
  - 平成19年度 2.4m<sup>3</sup> / 人日
  - 平成20年度 3.0m<sup>3</sup> / 人日
  - 平成21年度 3.9m<sup>3</sup> / 人日
  - 平成22年度 3.8 m<sup>3</sup> / 人日

・ハーベスタによる直接伐採・造材により効率化を図ったが、単木材積が低く生産性は昨年並みとなった。



## その他

- ・中濃森林組合視察 (2010/5/19)
- ・木材評価士講習 (2010/9/1. 2)
- ・かかり木伐倒講習 (2010/10/9)
- ・機械集材運転講習 (2010/11/13. 14)
- ・伐木講習 (2010/12/2)

## 森プロの成果

- ・育林型事業体から、育林・林産型事業体へ実践の場が出来た。
- ・地域を集中して集約化し、一体的な整備をする事が出来た。
- ・トラック道(基幹作業路)の開設により利用間伐対象森林が増加した。
- ・森プロを通じて、地域に期待感がわいてきた。山に対する興味がもどった。
- ・組合の森プロに携わる職員の増員ができ、他地域への取組へ繋げる機運ができた。

## 今後の課題

### ①事業の効率的な推進と波及

- ・集約化作業の効率化(集約化作業に手間が掛かる。)
  - いび森林資源活用センターとの協力体制による集約化作業の実施
- ・いび森林資源活用センターとの棲み分け、役割分担の明確化
- ・縁故者や地域有力者の協力を更に得て集約化を加速させる
- ・現存道路の拡幅の要望

### ②事業地・事業量の確保

- ・利用間伐地の確保(高齢級林)
- ・土質に応じた作業路の施工方法の確立

### ③森プロ事業地のこれまでの実績(H19~22)と今後の対応

<実績(計画)>

- ・集約化 : 266ha (595ha)
- ・作業道 : 4,607m (7,810m)
- ・間伐の面積: 135ha (196ha) <利用間伐 38ha 切捨間伐 97ha>

<今後の対応>

- ・今までフォワーダでの搬出用作業路しか開設しなかったため、利用間伐の実績が伸びなかった
  - ・平成22年度に開設した基幹作業道を利用した、利用間伐の実施と素材生産量の増加を図る
  - ・事業実施箇所が少なかった木曾屋西地区の北部・有鳥についても、引き続き所有者への説明等を実施し、集約し事業の推進
  - ・間伐に対して同意していただけない県外所有者に対し、引き続き電話等で説明を行い同意を得る
- ④いび森林資源活用センター協同組合との連携により林地残材の有効利用を推進